福島大学教職大学院　－　「自分の言葉でふるさとを捉え、考え続ける教育実践を。」…これを心の旗印に

この授業のねらいは、震災後の福島の教育、特に強制避難地域だった双葉郡を中心とした地域の学校の状況や抱える課題について理解することにある。担当教員によるレクチャーはもちろん、フィールドワークを通して、表層への理解ではなく、多層的な構造による複雑な課題に迫る。それを個々人が、リフレクションシートを通じて発酵させたうえで、振り返りの授業を迎える。受講者同士の思いを交差させることによって生まれるディスカッションは、絡み合う問題の糸をほぐしていく。

東日本大震災から14年
福島は復興したのか

「福島の学校と教育課題」（前期授業）

いまの福島を学ぶことで浮き彫りになる
東日本大震災後の福島における教育課題とはなにか

①　ある日の授業での質問

震災時に県内にいなかった。震災の授業をそんな自分がやっていいのか。自分の目で沿岸部を見ていない、薄っぺらい震災学習だ。

当事者とはいったい誰か

②　フィールドに出よう。人に会おう。

フィールドワーク　～双葉郡の教育復興の可能性～

学校、企業、行政それぞれの立場からの問題意識を出してもらうことで地域課題をより立体的に俯瞰し把握していく。

【学校】大熊町立学び舎ゆめの森　南郷市兵校長　講話

学び舎ゆめの森での教育をどうデザインするかー演劇教育の取り組みー

【企業】株式会社ふたば　遠藤秀文社長　講話

ふるさとをどう捉えどうつくるかー遠藤秀文さんの目指すものー

【行政】楢葉町地域学校協働センター猿渡 智衛センター長　講話

放課後を考えるー地域と学校の協働システムー

③　自らの思いを掬い取り、フレクションシートへ

～気になったキーワード、その理由、手に入れた新しい視点
もっと知りたいこと、もっと聞きたいこと、なにを感じたか～

今日の講話を聴いて

	（心に残った言葉/キーワード）	（理由）
①	地域デザイン　見える化	目に見えることって大切なんだと改めて感じました。自分で見て確認できるのはもちろん、相手に知ってもらう、納得してもらうためにも見える化することが大切だということを感じました。
②	復興再生プロセスの中に世界に注目されるものが生まれる	[illegible]と感じていた。それがどうしてだったのか[illegible]腑落ちしたから。
③	本質を見抜く	教育でも、そこが課題だと考えているため。浅いところで細かい工夫をするのではなく、深い根っこのところに切り込むことが大切。